

中信高校山岳部かわらばん

編集責任者 大西 浩

大町高等学校

「2016 北信越地区山スキー研修会 in 小谷」に参加して(2)

翌21日曜日、大西浩先生、松田先生は所用で昨晚帰宅したため、この日のメンバーは9人である。すなわち、昨日からの新保・北川・村本・富永・田中・西部に、大西(英)・鴻埜・根石が加わる。今日のコースは梅池の Gondola・リフトを利用してゲレンデトップの梅の森に上がり、鶉(ひよどり)峰の稜線を越して白馬乗鞍スキー場に滑り込む、通称「裏鶉」コースだ。天狗原まで上がる案もあったが、この日のうちに広島まで帰りたいため、鶉越えにさせてもらった。なお、今年の北信越研修会も1日はこのコースであったようだ。

7時からの朝食を済ませ、7時40分頃宿舎を出発。10分ほどで梅池の駐車場に到着。下山地の白馬乗鞍スキー場に1台の車をデポするため、新保車・大西車が移動し、8時20分頃両先生が戻ってきて、リフトに乗り込む。強風のため Gondola の運航は中間駅までであったので、リフト4本を乗り継いで梅の森(1570m)へ。

シールを装着して9時10分過ぎ登高開始。最初林道ショートカットの急傾斜を少し登り、以後林道をしばらく進む。早大小屋横から林道を離れて山の斜面に取り付き、10時15分過ぎ、鶉の稜線(1920m)に到着。あとでGPS軌跡を見ると、昨年4月の山岳ス

キー競技日本選手権の折、旗門員として立っていたA旗門のすぐ西だったと知る。

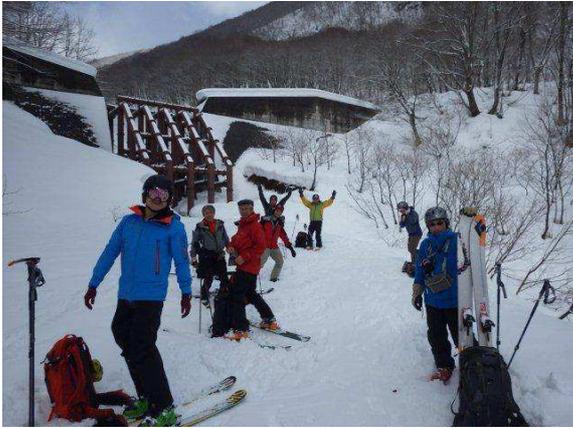
さて、ここからまずは「大岩」までの標高差450mの滑降。昨晚新雪が積もり、コンディションはすこぶる良い。なおかつ大量の降雪ではなかったため、急斜面も雪崩の心配はない。全員歓喜しつつパウダースノーを満喫。最初、腰の具合を理由に往路を引き返すと言っていた根石先生も、皆に説得され我々について来る。テレマークの根石先生の滑りはやはり優雅だ。日頃自分



の滑りを見ることはないが、改めてテレマークの良さを認識。一方、アルペンの滑りは、とりわけ先頭を切って滑走してゆく大西英樹先生の滑りはまことにパワフルだ。「英樹さんとのツアーは友人を無くすことになりかねない」などと田中先生に前の晩からかわれもしていたが、なるほどと納得。お互いが離れ離れにならないよう所々で止まりつつ、10時30分に滑り始めて30分弱で「大岩」横に着き20分ばかり休憩。

再びシールを装着し、130mばかり登り返して、トラバースと若干の下りも交えてちょうど1時間後の12時15分過ぎ、若栗の頭(1590m)に到着。ここでまたシールを外し、白馬乗鞍スキー場の上部にある「鉄パイプの砂防ダム」まで標高差500m少々を滑降。黒川沢出合の段差やその直後のスノーブリッジの通過など、やや注意を要する箇所があったが、一番の鬼門は鉄パイプ砂防ダムの通過だった。鉄パイプ砂防ダムとは、中央部

がコンクリの代わりに太い鉄パイプの骨組みとなっており、水は流すが大きな岩は堰き止めるというもの（写真参照）だった。そして水が流れているすぐ脇に幅 1m程の固まった雪が傾斜をつけてつながっており、そこをスキーを履いたまま慎重にカニ歩きで通



過したのだが、そこが一番緊張させられるところだった。あっさりスキー板を脱げば何のことはなかったのだが、ともかくも「鬼門」を無事に通過して一安心。若栗の頭からはちょうど 30 分であった。10 分の小休憩ののち、ほぼゲレンデと化している林道状のコースを降り、すぐにリフトもかかる広いゲレンデに出て、最後は斜め右横にゲレンデを横断して 10 分足らずで駐車場脇に到着。13 時 18 分、

楯の森を出発して 4 時間少々行程だった。新保車にそれぞれの車の運転手が乗り込み、20 分ほどで全員の車が戻り、解散式。

悪雪への対処そしてパウダーの堪能と、実技の面でも実に有意義な今回の研修会であったが、何より山スキー仲間が増えたことが一番の収穫だった。北信越地区の大西浩先生・根石先生・北川先生・松田先生・新保先生はインターハイ等でこれまでもよく存じていたが、ともに山スキーをしたのは初めてで、さすがに雪国の北信越の先生たちは雪山とスキーが達者であると思わされたし、ファットスキーなど、道具も違うと思わされた。また根石先生は、昨年滋賀で一緒に滑ろうとして果たせなかっただけに、同じテレマーカーということもあり、余計に嬉しかった。大西英樹先生・村本先生・鴻埜先生は初対面であったが、やはりその滑りには感心させられた。大西英樹先生については先ほど述べたとおりであるし、村本先生は何と云ってもその若さ(25 歳!)が羨ましい。一方、鴻埜先生は今年で退職ということだが、かくしゃくとした滑りであった。

北信越の皆さんにお別れし、我々中国組 3 人は、13 時 45 分過ぎ白馬乗鞍駐車場を出発、道の駅小谷での土産購入、糸魚川での給油ののち、15 時過ぎに糸魚川 IC より高速に入る。来た時と同様、3 人で運転を交代しながら、帰りは渋滞の予想される名神を避けるため舞鶴若狭道を経由して、龍野西に 20 時 45 分到着。富永先生には交通費として 8,000 円ほど負担していただいてお別れし、田中先生宅に到着したのが 22 時少し前。私の交通費負担分 10,000 円をお渡しして帰路に就く。22 時 10 分に田中先生宅を出発して、広島 IC に着いたのが 23 時 30 分過ぎであった。深夜なので 24 時前には自宅に着いたであろうが、知人に自費出版本を 1 冊渡すため途中で少し寄り道をし、午前 0 時を少しばかり過ぎて無事我が家に到着した。しかし今回の山旅の余韻ですぐには眠りにつけず、翌朝は少々寝ぼけ眼で出勤することになってしまった。

編集子のひとりごと

編集子自身は、初日のみの参加であったが、山スキーフリークが集まったの楽しい研修会であった。従来の北信越の山仲間に加えて、中国地区の先生方との交流は、刺激的だった。紙面の関係で、西部さんの文章を一部割愛させていただいたことをお詫び申し上げます。こんな交流がいろいろなところで広がっていくと素晴らしいと思う。(大西記)